

日々の生活と修学旅行

校長 二見 隆久

みなさんが楽しみにしている修学旅行が、いよいよ始まりますね。中学校の3年間でも、多くの人が「一番思い出に残った」と振り返る行事です。ぜひ、たくさん心に残る楽しい思い出を作ってほしいと思います。

ただし修学旅行は、遊びに行くわけではありません。また家族でいく旅行とも大きく違います。考えてみてください。みなさんは友達とディズニーランドに行くときや、家族で旅行に行くときに「目標」を決めたり、「決まり」を作ったり、行動計画を立てたり、消灯時間を決めたりしますか。そんなことはしませんよね。でも修学旅行は学校として実施する旅行的行事です。どんな行事にも目的やねらいがあります。今回の修学旅行でみなさんが立てた目標は、①日本の文化に触れて、興味を持って見学しよう ②計画通り行動できるように、時間を守ろう ③最高の思い出になるように、学年全体で協力し合おう です。具体的にいえば、学習面では、日本の素晴らしい文化に触れ、歴史の時間に学習した内容を振り返って感じ取ること、集団行動では時間や今やるべきこと（とやってはいけないこと）を常に意識して行動すること、250人以上が一緒に2泊3日を過ごすことから、みんなで協力して動くこと、まずい時には注意しあえることです。こうやって書くとどれも当たり前で、とても簡単に思えますが、実際は難しいと思います。私は日ごろから「凡事徹底（当たり前のことこそ徹底的にやる）」と言っていますが、実際には「凡事徹底」ぐらい難しいことはありません。なぜなら、みなさんの日頃の生活を見ていると厳しい言い方ですが当たり前のことがまだできない人が多くいるからです。学校生活でできないことは、修学旅行でもできない。体育大会の最後に「行事はその場が終わればおしまいではなく、行事で得た経験をその後の学校生活に活かすことが大切だ」と話しました。実はあの話は本当は「行事は、その前の準備やそれに取り組む過程が本番と同じように大切だ」という話の後半部分【?】なのです。

これから修学旅行に向けてみなさんが出来ることは、普段の生活を見直してやるべきことをやったり、時間を守ったり、友達と協力することだと思います。そして、その凡事徹底の日々の結果を3日間の修学旅行で発揮して、その成果をその後に続く残りの中学校生活に活かすことで修学旅行が成功したと言えるのではないのでしょうか。

みなさんと過ごす毎日の生活がこの2泊3日によってさらに充実したものになるように期待しています。

教育実習生のみなさんへ

3週間にわたる教育実習、御苦労さまでした。これまでの学生の立場から、指導者である教員として生徒と関わって、得るものも多くあったことと思います。うまくいかなかったことも含めて全てを糧としてください。

私は常々「教育は未来づくり」であると考えています。これからの未来を生きる子供たちに「教育」という行為を通して、影響を与える私たちの仕事は崇高であると同時に、大きな責任を負っているのです。先生が今日、子どもたちに教えたこと、今日かけた言葉、今日伝えた気持ち、それが子供たちの中に種となり蒔かれ、いつしか芽を出し、花が咲く・・・教育はまさに未来への種まきなのかもしれません。本校は生徒指導上課題もあり、授業以外でも先生方の労力が多く使われています。時には蒔いても、蒔いても芽が出ないこともあります。それでも私たちは、種をまき続け、水をやり続け、芽を出せば大事に育て、雨や風から守り、いつか咲くであろう花を想像しながら、地道に日々の教育活動を続けるしかないのだと思います。生徒達は3年間で必ず巣立っていきます。未来にそれぞれの子どもたちがそれぞれにふさわしい花を咲かせることを願って3年間という時間を全力で関わっていくこと、これが私たち教師の唯一無二の責務であると考えます。

みなさんとは、この学校で私が教員、みなさんが生徒という立場で出会い、今回不思議な縁でまた巡り合えることが出来ました。そして何よりうれしかったのは、みなさんが教職を志してくれたことでした。私たちがみなさんの未来に少しでも種をまくことになったのだとしたら、教師冥利に尽きるというものです。ぜひいつの日か同じ職場で働ける日が来ることを楽しみにしています。

3週間という短い期間ではありましたが、御一緒でき、また本校の子どもたちのために本当によく頑張ってくださいましたこと、心より感謝申し上げます。今後の先生のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

平成26年5月30日

朝霞市立朝霞第一中学校 校長
二見 隆久

「仲間」

おはようございます。今日は5月8日、始業式・入学式からちょうど1カ月目になります。この1カ月皆さんはどう過ごしましたか。1年生は少し中学校生活に慣れましたか。部活動も本入部となってこれから頑張ろうと思っている人も多いと思います。2・3年生は進級して1カ月、始業式の日には私が話した「変わる」ことができましたか。

私は、1ヶ月で大きく変わりました。その一つは朝霞一中が自分のいる場所だなあと感じて前にも増して好きになったこと、もう一つはみなさんのことを自分の生徒だなあと思えるようになって、とてもいとおしく思えるようになったことです。だから毎日学校に来るのが楽しくて仕方ありません。毎朝、みなさんに正門のところに立っておはようと声掛けをしています。だんだん大きな声であいさつしてくれる人が増えてわくわくしています。

朝霞一中には847人の生徒と60名を超える先生方が一緒に暮らしています。

とてもたくさんの方が一緒に生活しているけれど、考えようによっては一つの「仲間」なのだと思います。だから今日の話は「仲間」についてです。

ある学校で4月に3年生の転入生が来ました。女の子でした。その子は実は前にいた学校でひどいいじめにあっていて、2年生の途中から学校に行くことが出来なくなって不登校になっていたそうです。最初は担任の先生も学校に馴染めるかとても心配していました。ところがいつのまにかクラスに溶け込んで、結局1日も休まずに卒業式まで学校に来られたそうです。担任の先生はいつか聞こうと思っていた

ことを卒業式の日思い切って聞きました。「よく1日も休まずに頑張って登校できたね。相当強い気持ちで頑張ったんだね。」するとその女の子はニコッと笑ってこう答えたそうです。「先生、手です。私には仲間の手が見えたから」不思議に思ってよく聞くと、こんな話をしてくれたそうです。その子は転校初日の最初の授業のときに緊張していたせいか、机の上にあった自分の筆箱を過って落としてしまったそうです。大きな音がして筆箱に入っていた筆記用具が床に広がってしまいました。

あわてて床に、はいつくばろうとしたその子の視線の先にたくさんの手が見えたそうです。それはだまって立ち上がって散らばった鉛筆やペンを拾ってくれようとした仲間の手でした。みんなは、拾った筆記用具を手にとり持ってきてくれたそうです。「そのたくさんの手が見えた時に、ああ私は大丈夫だなあとふと思ったんです。」

「私には支えてくれる仲間がいるんだって思っちゃたんです。そしたら何かとても気が楽になって・・・おかしいですか。でもクラスの仲間は本当に思った通りの人ばかりでした。」と話してくれたそうです。

さてみなさんの周りにはみなさんが困った時に手を差し伸べてくれる「仲間」がいますか。それは友達だったり先生だったり、家族だったり誰でもいいんです。

反対にみなさんは仲間にそっと手を差し伸べていますか。なにも見返りを求めることなく黙って差し伸べる手を持っていますか。クラスや学年、部活一緒に3年間を過ごす仲間・・・大切にしてくださいね。終わります。